

# 国際交流つうしん



P.3 インドネシア・チアンジュール県からの中学生たち



P.3 ユニバーサルスポーツフェスティバル

## 目次

- P.2 地域日本語教育の現場から  
～印西市国際交流協会 日本語教室「りぼん」～
- P.3 インドネシア・チアンジュール県の中学生が見浜園を訪問しました！  
ユニバーサルスポーツフェスティバル
- P.4～5 事業報告（令和5年3月～6月）
- P.6 JAFからのお知らせ ～外国免許証の日本語翻訳文についてのご案内～  
今後の行事予定
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ！ ～インド共和国～

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**

外国人生徒  
のための  
教科につなげる日本語  
有本昌代  
応用編

外国にルーツを持つ  
高校生を主な対象とした日本語教科書

**外国人生徒のための  
教科につなげる日本語 応用編**

日本語学習を通し、教科の基礎となる語彙・知識を  
学びながら、思考力、表現力を養います。シリーズ  
『基礎編』『応用編』好評発売中。

有本昌代 著  
2,200円（税込） B5判 231頁  
補助教材（音声・教師用ツール/ガイド）は  
こちらから→

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は  
**出入国在留管理局への出頭が  
免除**されるので、**仕事や学業に  
専念**することが可能です。

お問い合わせは…  
**千葉県行政書士会**  
[www.chiba-gyosei.or.jp/](http://www.chiba-gyosei.or.jp/)

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号  
TEL：043-227-8009 FAX：043-225-8634



## 地域日本語教育の現場から

### 印西市国際交流協会 日本語教室「りぼん」

印西市国際交流協会の日本語教室「りぼん」は、2000年に印西市の公民館が主催した日本語勉強会に始まり、翌年日本語サークル「りぼん」として発足しました。

現在は印西市国際交流協会に所属し、市内5か所・計6教室で、約100名（17カ国）の学習者と、24名の支援者が活動しています。今回訪れたのは、千葉ニュータウン中央駅から徒歩のところにある「中央駅前地域交流館」で活動する「水曜日クラス」。

「水曜日クラス」は、主婦の方を中心に約34名もの学習者が集まる6教室の中で一番のマンモスクラスです。現在感染症対策のため、活動時間は2部制（9:30～11:00/11:10～12:40）となっています。

教室では学習者・支援者同士がペアもしくはグループになり、それぞれ会話をしながら活発に活動していました。学習者のレベルや目的に沿ったテキストを使用し、新聞記事を用いて語彙の学習やディスカッションをするなど、個々のニーズに合わせた活動を展開しているほか、日本語能力試験（JLPT）の受験対策に取り組んでいるグループもあります。



#### ——— 学習者にとっての「りぼん」

「りぼん」には、どんな方たちが通っているのでしょうか。

日本語の会話がとても流暢な学習者のデイさんは50年前にアメリカから来日。日常生活に困ることはないものの、漢字がほとんど読めないのが悩み。漢字で書かれたものは日本人の奥様に読んでもらうことも多いそうで、「自分でニュースを読み・聞けるようになりたい」と長年、教室に通い続けています。

韓国から日本人男性との結婚で来日したファンさんは専業主婦。ご主人以外の日本人ともっと話して、語彙力アップを目指しています。学習後は支援者の方とランチをしながら交流するなど、教室が学習者にとって大切な居場所になっている様子がうかがえました。



#### ——— 学習者を支える「りぼん」の支援者たち

印西市国際交流協会の理事で、長年支援スタッフとして活動に携わっている治田三夏さんと、支援者の方にも日々の活動についてお話をうかがいました。

教室活動では「今日何が出来るようになったか、を学習者に実感してもらうことがモチベーションにつながる」、「どちらかが一方的にならず、学習者・支援者がお互いに学び合う姿勢が大切です」と治田さん。

支援者の方々が活動を始めたきっかけは、市の広報誌の支援者募集案内を見た、大学の通信教育で日本語教育を学んでいる、リタイア後の活動として始めた、などさまざまです。市や協会などが開催する養成講座に参加してスキルアップをはかり、学習者のニーズに寄り添って支援方法に工夫を凝らすなど、日々学習者と全力で向き合っている支援者の方々の継続的な努力が、「りぼんの強み」であると感じました。



#### ——— 外国人の子どものための日本語勉強会いんざい（キッズIIFA）」が開催中です！

印西市国際交流協会では、近年増えている、学校生活での日本語に苦労している外国にルーツのある子どもたちへの日本語支援にも力を入れており、今年度は「外国人の子どものための日本語勉強会いんざい（キッズIIFA）」を開催しています。土曜日と日曜日2か所でそれぞれ月2回活動を行っており、現在はおよそ10名程度の子どものゲームなどの遊びを通して日本語の学習に取り組んでいます。

詳細は印西市国際交流協会のホームページをご確認ください。（<https://www.inzaiifa.org/>）

### ～千葉県国際交流センターの日本語事業担当をご紹介します～

あさい なおみ  
総括コーディネーター 浅井 尚美



入職後、日本語教師養成講座420時間を修了し、2023年4月より地域日本語教育推進事業の総括コーディネーターとして活動しています。

地域日本語教育コーディネーターの油川美和氏と連携して地域日本語教室の運営や立ち上げに係るサポートをしているほか、県内市町村や日本語教育関連団体と協力し、千葉県に住む外国人がそれぞれのニーズに応じた日本語学習ができる体制づくりを進めています。

## インドネシア・チアンジュール県の中学生が見浜園を訪問しました！ 3月14日

八街市国際交流協会の交流事業で、インドネシアのチアンジュール県から訪日した中学生9人が3月14日に海浜幕張にある見浜園を訪問しました。

園内茶室での茶道体験では、教わった通りに丁寧にお茶を立て、和菓子を口にすると、日本語で「おいしい〜！」との声が！茶室を去る時には「ありがとうございました」、と深くお辞儀をしてお礼を言う姿には感心させられました。今回の来日で一番楽しみにしていたことは、



は、以前からオンライン交流を続けてきた

八街中学校の生徒さんたちと会うこと。前日の学校訪問での授業交流では、レクリエーションが一緒にできて、とても楽しい時間を過ごせたと、嬉しそうに教えてくれました。

その次の楽しみは、日本の食べ物を食べること。この日は着物を来て成田市周辺を散策したあと、お昼にはみんなでお寿司を食べに行ったそうで、「サーモンが好き」と話す生徒さんが多くいました。来日前に用意した日本語メモを見ながら、一生懸命日本語で伝えようとしてくれる姿が大変印象的でした。



## ユニバーサルスポーツフェスティバルを開催しました！ 5月14日

～ユニバーサル  
スポーツとは？～  
年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、みんなが協力して一緒に楽しむことができるスポーツです。



JICA千葉デスク主催のユニバーサルスポーツフェスティバル2023が5月14日、千葉市子ども交流館で開催され、2歳～80歳、車いすの方、外国籍の方など80名が参加しました。さまざまなバックグラウンドを持つメンバーで構成される混合8チームで3種類のパラスポーツ（ボッチャ、卓球バレー、風船バレー）を対抗戦で行いました。

ユニバーサルスポーツでは、チームの条件をなるべく一律にする、というユニークなルールがあります。

たとえば、視覚にハンディのある方や車いすの方がいるチームと対戦するときは、相手チームの誰かがアイマスクをつける、椅子に座ってプレイをするなどの条件が課されます。いかにチーム内でメンバーのフォローをしあえるかが勝敗のカギとなります。

泣き出してしまった2歳の子どもを一生懸命なぐさめるシニア、車いすを押してあげたり、視覚障がいのある仲間を率先して誘導する小学生の姿も見られました。

スペシャルゲストとして、日本パラバレーボール選手権大会5連覇の千葉パイレーツから元パラリンピックの選手やアスリートもチームに入って参加者と交流し、大盛況で幕を閉じました。

## 2023年3月より千葉県国際センターに新たな仲間が加わりました！

くさき

**草木さん (KUSAKI)**

セミナーの企画や、「国際交流つうしん」の発行、予算など全般を担当している草木さんは、いつもポジティブで、外国の方々との交流を心から楽しんでいます。キャビンアテンダントとして長く勤務していた経験を活かし、丁寧な接客と笑顔、魅力的なアナウンススキルで素敵なイベントを皆さんにお届けします！

みつもり

**光守さん (MITSUMORI)**

外国の大学を卒業し、行政書士の資格保有者でもある光守さんは、堪能な英語と在留資格への豊富な知識が強みです。外国人相談担当として、外国人からのさまざまな相談に応じ、解決へと導いてくれます。また、日本語のボランティア活動をしていたこともあり、日本語教育事業担当としても活躍中です！



左:草木さん 右:光守さん



## ◆チーバくんグローバルパートナーズ任命式 4月20日

千葉県では「国籍や言語、文化、習慣等にかかわらず全ての県民が共に安心して暮らし、活躍できる県づくり」を進めています。外国人住民ならではの視点で県の施策を共に検討し、災害時などに多言語での情報発信に協力する「チーバくんグローバルパートナーズ」が、今年度は29名の外国人住民が千葉県から任命され、当センター事業での活躍も期待されています。



## ◆多文化共生社会理解促進講座 ファシリテーション研修会 4月16・23日

千葉県国際交流センターでは、外国人講師の皆さんと県内の小中学生が交流をしながら多文化共生を体験できる講座を令和2年度から実施しています。今年度は新たな講師の方もお迎えし、子どもたちに楽しく学んでもらうためのファシリテーション方法を検討する研修会を2日間実施しました。実際にグループワークを体験し、資料の作り方のポイントなどについて、講師間で意見を交わしました。さまざまなバックグラウンドをもつ講師の方々の特性を生かして、子どもたちに伝わる授業をしたい、という意気込みが感じられました。今年度は医療・福祉施設や特別支援学級なども対象に講座を実施することとなり、講師の皆さんの今後の活動が楽しみです。



## ◆災害時多言語支援センター設置 5月11日

5月11日に千葉県木更津市で観測した震度5強の地震をうけて、災害時多言語支援センターが、当財団に設置されました。災害時多言語支援センターでは、主に外国語での注意喚起等の情報発信や、相談などに応じることとなっており、被災地への巡回や翻訳業務などをご協力いただける事業ボランティアの方を常時募集しています。災害時の外国人支援にご協力いただける方は、ぜひ事業ボランティアにご登録ください。

## ◆市町村国際化施策担当者会議 5月12日

千葉県の国際課主催により、市町村の国際化施策担当者会議がオンラインで開催されました。県からの主要施策（千葉県多文化共生推進プラン、ウクライナから避難された方への支援等）の説明に続き、千葉県警察本部、（公財）ちば国際コンベンションビューロー、（独）国際協力機構JICA、（一財）自治体国際化協会CLAIR等、関係団体から取組の紹介がありました。千葉県の在留外国人数は2022年12月末時点で18万2千人に達し、県人口の2.8%を占めます。過去10年間で約1.7倍の増加率となり、県、市町村、関係機関との連携が今後益々重要となります。

◆Hawaii Association of Public Accountants  
67<sup>th</sup> Annual State Convention 5月23日

当財団MICE事業部が誘致・開催が決定した、ハワイ公認会計士協会（HAPA）の定例会議が今年、日本で初開催されました。会場となったヒルトン成田には国内・海外から95名の参加者が集い、成田市の関根賢次副市長がご挨拶されました。八千代市国際交流協会元副会長で、当センターの語学ボランティアの瀬下和正さんが、副市長挨拶の英語通訳を担い、「とても楽しく通訳ができた」と活動を振り返りました。



## ◆第1回 ちば多文化共生地域円卓会議に参加してきました！ 6月3日

NPO法人多文化フリースクールちば主催の上記会議に参加して参りました。多文化フリースクール、今年4月に開校した夜間中学校、日本語指導が必要な生徒が急増した高校や日本語教室、ボランティア団体、千葉市国際交流課、大学へ進学した学生等ゲストスピーカーの皆様から、外国出身生徒の受入れ状況や日本語学習支援方法、体験談等の発表がありました。

学校、大学、行政、教育委員会、支援団体等、外国にルーツのある児童・生徒の教育・支援に関連する様々な立場の方々約50名が対面で一室に会し、これからの支援の可能性について積極的に情報交換を行い、熱気あふれる会議となりました。秋には第2回の円卓会議が開催予定とのことで、今後の連携、協力が期待されます。



## ◆「令和5年度 日本語学習支援者基礎研修 ～はじめて支援を行う方へ～」を開催しました！ 6月1日・8日・15日・22日・29日 全5回（オンライン開催）

18歳以上の千葉県民で、日本語学習支援に興味がありこれから始める方を主な対象として、「令和5年度日本語学習支援者基礎研修」を開催しました。講師には東京にほんごネット代表の有田玲子氏をお迎えし、約30名の方々にご参加いただきました。有田先生には、生活者のための「日本語」と日本語教室の役割、外国語としての日本語（形容詞・動詞）、やさしい日本語、日本語教室の活動などについてお話しいただきました。各講座の中で参加者同士の意見交換を行ったほか、講座の終了後には地域日本語教育コーディネーターの油川美和氏も交えて、参加者が自由に質問や発言ができる機会を設けました。参加者の中には研修終了後の具体的な支援方法や日本語学習支援のためのテキスト、子どもの学習支援方法などについて積極的に質問する方もおり、日本語学習支援に対する意識の高さを感じられました。



## ◆多文化共生社会理解促進講座 @船橋市立葛飾中学校 5月25日・6月8日

3年生10クラスを対象にNPO法人開発教育協会が提供する「レヌカの学び」を活用した講座を実施しました。「なぜ日本に来たのか」「日本でどんなことを学び、どんな職業につくことができるようになったか」などキャリアに関するテーマも取り上げ、今後、進路選択をしていく過程でより広い視野を持つことの重要性を、パキスタン、オーストラリア、ペルー、台湾、ネパール、スリランカ出身の講師がそれぞれの経験から伝えました。

### @千葉大学教育学部附属小学校 6月5日

4年生～6年生の帰国学級の子どもたちと、イギリス出身のローラ・ウェイクフィールドさんがLGBTQについて意見交換を行いました。ローラさんは、「男性でもない、女性でもない、中間があってもいいと思う」とご自身の考えを伝えたくて、当事者の立場からジェンダーに違和感を持つ人たちの気持ちはどんなものなのか、今までどんなことに困ってきたかについてお話ししてくれました。さまざまな価値観を受け入れる個人的な優しさや思いやりを持つとともに、社会や学校でのルールが構造的に無意識な差別を生み出していないかなどについて、みんなで話し合いました。



### @日本医科大学看護専門学校 6月15日

看護専門学校3年生の70人に向けて、「異文化理解～多様な生活習慣・価値観を理解する～」というテーマで、ペルー出身の上村寿安カルロスさんが、出身国ペルーと日本との考え方や医療制度の違いなどについて講演したほか、いずれ医療の現場に出る学生さん達に向けて、外国人が日本で病院を受診する際に抱く様々な不安などを伝えました。「家族が病院を受診するときは、学校を休んでもでも通訳に付き添わなければならないかった」という話に、医療通訳の必要性について改めて考えさせられました。

### @市川市立大和田小学校 6月19日

ペルー、ネパール、台湾出身の講師3名が4年生3クラスを対象に出身国の食習慣や学校生活、文化などを紹介しました。「台湾では小学生が屋台で買った朝食を学校に持ち込んで自分の机で食べるのは普通」という話に、「いいな～」と教室が大きな歓声に包まれました。プロのシタール奏者で、ネパール出身の講師は、「演奏のためには指を温めすぎはいけないので、お風呂でも指は浸からせない」とプロならではの経験談を語り、子どもたちを惹きつけていました。



### @市川市立宮田小学校 6月27日

メキシコ、インドネシア、中国、ペルー出身の講師4名と、5年生2クラス、6年生2クラスの子どもたちと交流授業をしました。本物の中国のお菓子のパッケージ、メキシコのカウボーイハット、インドネシアの民族衣装の披露には子どもたちも興味深々。「チワワはメキシコの犬で、メキシコにはチワワ州がある」「インドネシアでは高校生になったら自分でバイクや車を運転する」「100円あったらペルーでたくさんのパンが買える」など、その国ならではのエピソードが写真や動画で、楽しく紹介されました。





## JAFからの お知らせ

# 外国免許証の日本語翻訳文についてのご案内

外国免許証の「日本語による翻訳文」は、外国運転免許証の日本の免許証への切り替え（外免切替申請）をおこなう際に必要な書類の一つです。

外国の運転免許証をお持ちの方は、各都道府県警察の運転免許センターにて日本の運転免許証に切り替えることができます。

（以下、この手続きを外免切替といいます）

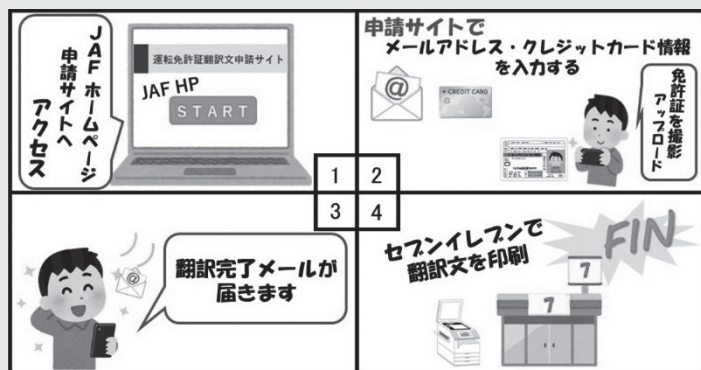
外免切替をおこなうためには、以下の2つの条件を満たすことが必要となります。

1. 外国免許証が有効であること（有効期限の切れた免許証は切り替えできません）
2. 外国免許証を取得した日から通算で3カ月以上その国に滞在したことが証明できること

JAF（ジャフ）で外国免許証の「日本語による翻訳文」WEB申請方法

- ① JAFのWEB申請サイトにアクセスしていただけます。
- ② 新規登録またはログインを行います。申請する外国免許証の情報を入力し、申請手続きを進めます。
- ③ 申請手続きが完了すると、指定したメールアドレス宛に、セブンイレブンで発行できる交付番号が届きます。
- ④ セブンイレブン印刷機で交付番号を入力し、翻訳文を発行してください。

## HOW TO Web翻訳受付申請



WEB申請サイトはこちらから



JAF  
一般社団法人  
日本自動車連盟

※メールアドレスとクレジットカードをお持ちでない方は、郵送申請にてお願いいたします。  
**郵送申請** JAFホームページ上の申請書を印刷していただき、現金書留にて4,000円と申請書、免許証両面コピーをJAF東京支部へお送りください。

## 今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
多文化共生社会理解促進講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心としたクラス授業の実施	随時
日本語学習支援者基礎講座	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	10~11月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語学習支援の活動のヒントを学ぶ講座	9月
地域日本語教育関係者ミーティング	日本語学習支援の活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	9~3月
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演、意見交換	9~3月
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や、市町村国際交流協会担当者による情報交換	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座、意見交換	年3回
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	年3回

## 千葉県国際交流センターHP&SNS

千葉県国際交流センターでは、センター主催のイベントや県内の国際交流・協力団体の情報のほか、各種相談窓口や日本語教室のリストなど、外国の方にも役に立つ情報をホームページで紹介しています。またFacebook・Instagram・Twitterで最新情報も発信していますので、ぜひご覧ください。

HP



Facebook



Instagram



Twitter



## JICA千葉デスクが交代します!

こんにちは、木村明日美です。

2020年6月コロナ禍真っ只中に着任したとき、JICA海外協力隊の派遣はなく、対面でのイベントや移動はできず、少しずつオンラインでのイベントが普及し始めた頃でした。外国に行けない今だからこそ、国内で外国を知れるツールやイベントを作ろう! ということで3年間活動してきました。東京2020に合わせてホストタウンとコラボして行った写真展や国紹介動画、協力隊の派遣が再開してからは派遣中の隊員に登壇してもらう出前講座やイベント、千葉県国際交流センター等と共催で行ったユニバーサルスポーツフェスティバルなど、JICA千葉デスクは一人でも、様々な方とコラボすることで、幅広く国際理解促進のための事業ができたと思っています。関わってくださった皆さんに心から感謝申し上げます。

後任は、JICAとしても在外経験豊富で多文化共生や教育分野に明るい方です。(次号のつうしんで自己紹介していただきます。) 今後もJICAは更なる国際理解促進のため、国内、千葉県内で取り組んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い致します! 改めまして、お世話になった多方面の皆さま、ありがとうございました!

木村明日美

### 協力隊レポート <佐藤美夢隊員/市原市出身/エジプト派遣>

活動地：エジプト ミヌフイーヤ県 (2022年8月派遣)

職種：小学校教育

私は、エジプトの首都カイロから電車で1,2時間のところにあるミヌフイーヤ県のEJS (Egyptian Japanese Schools) という、日本式教育システムを取り入れた小学校で活動しています。EJSでは日本式教育としてTOKKATSU (特別活動) の導入に力を入れていて、現在、エジプト国内に50校以上あります。私たち日本人が当たり前を経験してきた学級会や掃除、当番活動、行事などはエジプトの人々にとっては馴染みのない新しいものです。そこで、TOKKATSU導入の手助けができるよう、日々、子供たちと一緒に掃除をして手本を見せたり、先生方に授業や学級経営、イベント運営についてのサポート・アドバイスをしたりしています。TOKKATSUの意義や効果を高める方法についてじっくり考える中で、改めてTOKKATSUの大切さに気付くこともできました。



#### ～お気に入りのローカルフード～

「マハシ」

中身をくり抜いた野菜の中にハーブ入りの米を詰めて、スープで炊いたものです。野菜は、ナス、ズッキーニ、ピーマンを使うことが多く、キャベツやぶどうの葉で米を巻いて作ることもあります。鍋いっぱい敷き詰めて炊き、大皿に山盛り乗けて、家族みんなで手でつまんで食べるのがエジブシャンスタイルです。エジプトに来たらぜひお試しください!

### JICA千葉デスクに7月3日から、岩沢久美子さんが着任しました!

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク

国際協力推進員 岩沢 久美子

TEL : 043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX : 043-297-2753 E-mail : jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp





# 世界からようこそ千葉県へ!

## インド共和国



※外務省ホームページより引用

今回は、千葉県国際交流センターに出前講師として登録して下さっている、グルバキシユ・シンさんの寄稿です。日本文化に造詣が深く、日本人と文化交流をしたい、とお考えのグルバキシユさんに母国のインドについて教えていただきました。

皆さん、ナマステ!そしてこんにちは!グルバキシユ・シンです。私の専門は哲学で、特に仏教、日本の禅仏教について研究しています。NHK国際放送センターで12年間、アナウンサーと、ニュースライターとして、また横浜の国際仏教交流センターでも研究者として活動していました。インドでは、いろいろな時代の時代劇ドラマの研究や、脚本家としても活動しています。私の母国インドについてご紹介します。

### 【昔のインド】

インドは南アジアに位置し、長い歴史と豊かな文化を持つ国です。スパイスやヨガ、仏教の生まれた国としても知られていますよね。



インドの伝統的な服装

古くから、額に赤くてまらぬ神秘的なビンディや、サンダルウッドマークの長いチャックを身にまとい、多様なスタイルのター

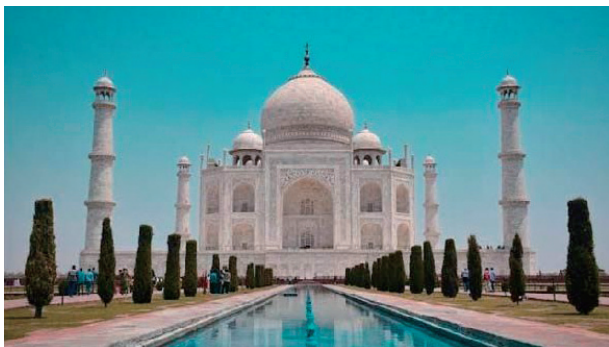
「サリー」と呼ばれる服も有名ですが、それぞれの地域に独特の料理や服、踊り、音楽、楽器、生活習慣があり、毎日新しいものや出来事に遭うのがとても楽しいです。



アムリトサールのシーク教のゴールデン・テンブル

### 【現代のインド】

めざましいIT技術の発展によりインドは今、世界から熱い視線を集めています。2022年インドの国内総生産(GDP)の成長率は世界第5位となり、インド歴史上最高の169人の億万長者を記録しました(フォーブス2023のリストによる)。インド出身の人々は、世界中でトップのポジションにつき、将来のビジョンと世界的な発展の中心的立場にあると言えるでしょう。マイクロソフトのサティア・ナデラとグーグルのサンダー・ピチャイなど大企業のCEOはインド出身の方が多く、政治の場面では、現在米国副大統領カマラ・ハリスと英国のリシ・スナク首相もインド出身です。



アグラ市にある愛の象徴、タージ・マハル

バンを被って、色彩豊かな伝統的な服装をしていました。愛の象徴としての総大理石の墓廟や、タージ・マハルもあり、壮大なヒマラヤの山と神聖なガンジス川など、自然にも恵まれた国です。インドには多くの民族が住んでおり、多様な言葉と宗教、料理や伝統的な服装など、地域によって独特な文化と習慣が存在します。インド料理と言うと辛いカレーとナン、



伝統的なインドの食事



パンジャーブ州の広大な野源

今、インドの人口は世界一となり、世界有数規模の民主主義国家とも言われています。古くから伝わる伝統的な精神や文化財と現代の技術経済の飛躍の融合が、インドのさらなる成長と発展につながっていくでしょう。

Instagram ([https://www.instagram.com/chiba\\_international\\_center/](https://www.instagram.com/chiba_international_center/))、Twitter ([https://twitter.com/chiba\\_ccb\\_ic](https://twitter.com/chiba_ccb_ic)) 始めました! 「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階  
TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@ccb.or.jp

事務所が  
移りました!

<https://www.mcic.or.jp/へgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行  
(7,11,3月)